



今月の人権標語

「あれ、おかしい」ちょっと感じたら 即行動

先月号の人権だよりに対して、保護者の方々からたくさんのご意見・ご感想をいただきありがとうございます。今月号に掲載させていただくのはほんの少しのご意見にはなりますが、保護者の方々からのご意見等をしっかりと受け止め、より良いものをお届けしたいと思います。また、生徒のみなさんも、自分の感じたことを、自分の言葉で表現してくれて、どうもありがとうございます。人権に関して書かれた文章をこれから読んでいって、心の中に「わがこと」として感じたことを蓄積していってくださいね。



手を取り合って

教頭 花岡 達朗

皆さんは「上を向いて歩こう」という歌を知っていますか？

坂本九さんが歌い、アメリカでは「Sukiyaki」という曲名でヒットしました。知らない人は、インターネットでも検索すると見つかりますので、探してみてください。歌詞を読むと、暗い夜道を泣きながら一人で歩く姿を思い浮かべることができます。何かつらいことがあったのでしょうか。ヒットした背景には、自分にもこんな時があると共感されたことがあるのではないのでしょうか。

ところで、この歌を作詞したのは永六輔（えい ろくすけ）さんという方です。もうお亡くなりになりましたが、テレビやラジオで大活躍されていました。思っていることをずばずば言う、歯に衣着せぬ語り口が人気の一つだったようです。そんな永さんと、「橋のない川」を執筆された住井すゑ（すみい すゑ）さんが対談された本の中で、永さんが、このようなことを切り出したと記憶があります。

「西光万吉さんが起草された水平社宣言の中で、『人間に光あれ』は、『にんげん』よりも『じんかん』があっているような気がします。」

住井さんも同意されたのですが、『人間（じんかん）』というのは仏教用語で「人と人之間」のことと言われていたように思います。想像してみると、「にんげんに光」が当たると、今まで暗く寒い思いをしていたのが、暖かくなり、何かこれからは希望が持てそうな気がします。「人と人之間に光」が当たると、隣にも同じようにつらい思いをしていた人を見つけて、お互い大変だけれど、二人で手を取り合えば少し勇気が出て前に進めそうな気がします。

自分のことで精いっぱい、なかなか他人のことまで考える余裕がない世の中のようにも思いますが、時々あなたの隣にどんな人がいるか周りを見渡してみるのも必要なことのように思います。



■ みんなの声 ~前号の人権だよりを読んで~ ■

<生徒からの声>

- ・人権を学ぶことは今の私にとって当たり前のことだと思っていましたが、その取り組みがあるから差別や偏見を持たない自分になっているのだなと思った。
- ・僕は、まだ自分の存在価値がわかりません。これまでも人権学習としてたくさんのことを学び、考えてきましたが、自分に焦点を当てたことはありませんでした。高校三年間の人権教育を通して、少しでも、自分の存在価値が見いだせれば良いなと考えます。
- ・自分も誰かの仲間になりたい、協力して何かをやりとげたい、話をしてお互いを理解したい、そう思うからこそ、周りの目が気になってしまうんだと思います。こわがるばかりではなく、一歩踏み出す勇気が持てるようになっていきたいです。
- ・人権の授業をすると、いつか人権の授業をしなくても、相手を尊重できる世界になればいいのにと考えてしまいます。そんな世界への一歩となればいいと思います。

<保護者からの声>

- ・私も学生の時、人権について授業を受けました。社会に出てみると大人の世界はまだまだ力の原理が主流で、あの時の授業は何だったのかと思われます。子どもに残す世界が授業で習った世界に少しでも近付けるように、何が正しいのか自身で見極め行動できるような力が付くよう、継続した教育が必要だと思います。
- ・日本人が「出る杭は打たれる」など、みんな平等を良しとすることを言われることが多いと思うが、自己主張ではなく「自己評価」を高め、自分の存在価値を認めることで、他の人を尊重していき、より良い関係ができると思った。
- ・ありのままに生きること、そしてありのままに生きられること、何より人として大切なことだと思います。多感な今を大切に、自分と周りにいる人を大切に生きていくための高校生活を送ってほしいと願っています。

----- 切り取り線 -----

【保護者用】

今月の人権だよりを読んでの感想をお願いします。 ※締切り 5月30日(水)

()年 保護者

----- 切り取り線 -----

【生徒用】

今月の人権だよりを読んでの感想を書こう。 ※締切り 5月30日(水)

()年 ()組
